

2021年度JAUW文化交流事業 in 札幌

「COVID19下の留学生活で思うこと ～母国と日本の教育の違い～」

2022年1月16日(日)午後1時～3時30分

開始時刻までお待ちください♪

【お願い】

- 1) この会は 記録のために 録画録音いたします
- 2) 発言者以外の方は 音声をオフにしておいてください
- 3) ご質問は チャット機能にて全員宛て送信をお願いいたします
- 4) 質疑応答の時間を限らせていただくがございます

以上 楽しい会となりますよう ご協力をお願いいたします♪

主催：(一社)大学女性協会札幌支部 協賛：(一社)大学女性協会文化交流委員会

本日の発表者紹介

発表順	お名前	出身地	現在の所属 北海道大学留学生協議会 (HUISA)
1	Fernando Ursine	ブラジル	北海道大学公共政策大学院
2	Yixuan Ong	シンガポール	北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院
3	Yannick Oliveira	アンゴラ	北海道大学大学院工学院
4	Juliana Porkkala	フィンランド	北海道大学大学院文学院
5	Sebastien Abilla	フランス	北海道大学大学院環境科学院 (在学) フランスの国民教育省 (休職中)

発表・Q&A・その他の時間は目安

チャット利用もお願いします

13:00	主催者挨拶(5)	
13:05	発表 1 (15)	Q & A(7)
	発表 2 (15)	Q & A(7)
	発表 3 (15)	Q & A(7)
14:10	break	
14:20	発表 4 (15)	Q & A(7)
	発表 5 (15)	Q & A(7)
15:00	Q & A(10-20)	
	JAUW会長・文化交	
15:20	流委員長挨拶(5-10)	

2021年度 JAUW 文化交流事業 in 札幌 北海道大学留学生との文化交流会

「COVID19 下の留学生活で思うこと ～母国と日本の教育の違い～」

札幌支部 国際委員会委員長 野寄由利

2022年1月16日、オンライン会議アプリ ZOOM を使って、北海道大学大学院留学生 5名から

「教育」をキーワードに発表してもらおう会を開催した。この会は大学女性協会本部文化交流事業として、本部の協賛により実施された。全国会員に周知することによって、札幌支部のみならず、茨城、神奈川、東京、金沢、京都、神戸、奈良、大分と全国各地の支部から総勢 30 名が参加した。

留学生は、ブラジル、シンガポール、アンゴラ、フィンランド、フランスと、地域・性別ともに多彩な顔触れ。各自の持ち時間が 15 分と短い中、母国の教育制度を日本と比較しつつ、スライドを用いて説明した。参加者は ZOOM のチャット機能を用いて質問を投稿し、留学生がその質問に答えた。終了後には Google FORMS を利用した参加者アンケートも実施した。COVID19 下で奇しくも広がったオンライン会議機能が活用された。

5 名の発表を聞いてわかったことは大きく三つある。一つは、多少の差はあれ人間の心と身体の発達により教育制度はだいたい似たような設計であること。第二は、設計は似ているが、国の発展レベル (developed or developing)、政治や思想の違い、法律の違い、民族(単一か多民族・多部族)の違い、地域の社会経済事情により、子供たちが受けられる教育に大きな相違が生じているということ。そして三つ目は、すでにわかっていることだが、今の日本の教育には、解決すべき課題が山積していることである。

◎ブラジル出身のウルシーネさん(27)は言う。「公立学校であれば大学院まで無償。連邦国家であるブラジルは州や市が権限を持ち、政治によって教育予算が削られると公立学校の質はたちまち低下する。また、アマゾンなど地域格差が大きい。大学進学統一テストがあるので、出題範囲の教育内容は担保されるが、それ以外は地域の法律で内容が決められる。国の発展に寄与するのは科学とみなされているので理系学生が優遇されていると思う。小学校からパソコンの使い方は習う。」ウルシーネさんは、日本の国立大学が有償であることが不思議でならないようだ。

◎オンさん(30)は多民族・多宗教・多言語・多文化国家シンガポール出身。「COVID19の環境に慣れ

るには時間がかかったが、新しい趣味もみつけて『外出しない暮らし』に慣れた。帰省時には隔離生活も経験したが、規則正しい生活で仕事がかどり集中力が高まったと思う」とたくましい。「共通言語の英語以外に、民族の言語を学ぶことが必須。小、中、高校と各段階で難しい達成度テストが課される。生徒により達成のスピードが違うので中学は4年または5年間。テストの点数で次の段階の学校を自由に選択する。小中学校は無償。高校以降は有償だが永住権があれば安くなる。グループで議論し解決を導く授業が盛んで、日本の学生より議論が活発だ」と話す。日本人学生の議論が少ないことを指摘する留学生は多い。

◎アフリカの国アンゴラは日本から1万3400キロ以上離れている。北に森、南に砂漠がある多部族国家だという。植民地時代の影響でポルトガル語が共通言語。このアンゴラからアニメにあこがれて来日したのがオリヴェイラさん(29)だ。オリヴェイラさんは国の紹介から始めた。「アンゴラはリズムとダンスの文化。サンバやパリ・オリンピックで採用されたブレイキンなど、すべてアンゴラのリズムとダンス文化が源流にある。しかし、母国は発展途上。だから国を早く発展させるために教育を行い、人々にスキルを与えることが最重要課題なのだ」と語る。大学院修了後、できれば日本企業に就職し、いつかは国に戻れればと話してくれた。

◎フィンランド出身のポルカーラさん(25)は豊富な写真を使いフィンランドの教育を紹介した。「教育はフィンランドの誇り。全国で教育の質は同じ。高校まで無償で、厳しい校則や制服はない。高2のときのボールルームダンスは最大のイベント。それが終われば高校修了試験。とても厳しいが、試験に通った卒業時に渡される白い学帽は誇りで、生涯ことあるごとに身につける。多くの人は地元の大学に進学する。大学の学費はわずか。頭のいい学校とか悪い学校という評価基準はない。自分のペースで自分の進路を決めることが大切。ペアワークやグループワークでコミュニケーション能力を養うことができる」という。学校に通う年齢は青春時代と重なる。入試のための勉強以外に、この年齢だからこそ経験できること、経験させたいことがあると強く感じた。

◎最後に登場したフランス出身のアビラさん(36歳)は、フランス領ギアナで6年間教鞭をとった後、来日した。「フランスでは2歳から公教育を受ける。幼稚園ではなく学校。先生も公務員。高校の卒業率は88%で、卒業資格が得られず25歳までに失業する人が22%もいる。仏領ギアナは海外県として同じ教育制度があるにもかかわらず失業率は40~60%。多様なバックグラウンドをもつ子供たちは、本国の移民もそうだが、十分な教育環境に置かれていない。教員としてすべきことは、教科を教えることも大切だが、それ以上に子供たちによい学びの環境を用意することだと思う。教員は充実した養成課程があるが、一方で現場では日本のような職員室がなくて孤独だ。教員の心理面のフォローも必要だと感じる」という。教員ならではの問題提起は切実だ。

彼らの話を聞けば、翻って日本の教育はどうだろうかと考えずにはおられない。給食費、高校の無償化、入試制度、外国語教育、考える力、発表する力、IT教育、就活……。課題のリストは長いが、考えるヒントは彼らの話の中にあるように思える。

もっと掘り下げて聞きたいことは山のようにあった。質疑応答の時間が制約されて消化不良の向きもあったろう。運営上の反省点も多々あった。それでも、参加することによって何か少しでも思うところをみつけていただけたなら幸いである。

表1 発表者一覧

名前	年齢	国籍	所属	在日年数
Fernando URSINE (フェルナンド・ウルシーネ)	27	ブラジル	北海道大学公共政策大学院	5年
Yixuan ONG (イーシューン・ウ)	30	シンガポール	北海道大学大学院 国際広報メディア観光学院	4年
Yannick OLIVEIRA	29	アンゴラ	北海道大学大学院工学院	4年

(ヤニック・オリグエ)				
Juliana PORKKALA (ジュリアナ・ポルカ)	25	フィンランド	北海道大学大学院文学院	5年
Sebastien ABILLA (セバステイアン・アビラ)	36	フランス	北海道大学大学院環境科学院 フランス国民教育省(休職中)	7年

表2 参加者一覧

支部	札幌	茨城	東京	神奈川	金沢	京都	神戸	奈良	大分	会員外	合計
人数	8	2	7	3	1	2	1	3	1	2	30

表3 終了後アンケートへの回答より（一部抜粋・敬称略）

短時間で各国の教育事情を視察した気分です。	大分支部 藤内和子
なかなか知る機会のない各国の教育事情、日本の教育で目についた違いを5人の方からそれぞれ聞いたことは、日本の教育を振り返るために、大変有意義でした。	広報委員長・神奈川支部 穂田信子
5人それぞれのお国柄が良く分かる内容で、どのお話も興味深く聴くことができました。特に、日本の教育が受験のための教育になっていることを改めて認識しました。私はもっともっと質問したかったです。	奈良支部 中道貞子
留学生の母国における教育制度を柱にしたことと、出身国の選定のバランスが秀逸でした。（偶然として）も、日本に留学し母国の教育から育成された「価値観」を基礎とすると変化したもの、付加したものはあったのかを知りたかった。日本人学生との価値観の共有も是非。	東京支部 建部静代

とても良い企画で、時間が早く過ぎたように感じた。問題点など聞ける時間
間がもう少しあればと思った。

京都支部 高橋侑子

※アンケートへのご回答、ありがとうございました。

